

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加を目指し、児童・生徒の発達段階に応じた系統性のある教育課程の編成と授業への活用を進める。	① 学習指導要領に則って発達段階に応じた系統性のある教育内容を考え実践する。 ②-1 ICT 機器活用の推進及び学習教材・授業例の充実を図る。 ②-2 ICT 機器の活用事例や授業での活用状況について、情報発信を進める。	①-1 校内研究で地域と協働した教育課程について検討し、実践につなげる。 ①-2 改めて教育課程、カリキュラムマネジメントについて、職員対象の研修に取り組む。 ②-1 内容(形態や方法含む)を工夫した研修会を実施し、職員の理解を深めると共に、ICT教材や授業例を共有して授業改善につなげる。 ②-2 ホームページや通信、授業参観・面談等で積極的に情報を発信していく。	①-1 校内研究とも絡めながら、授業づくりに取り組むことができたか。 ①-2 研修を実施し、理解を深めることができたか。 ②-1 多くの職員が参加できる研修会を実施し、各学部で授業改善につなげることができたか。 ②-2 ICT 機器の活用について、積極的に情報発信を進めることができたか。	①-1 各学部で地域との連携を授業に組み入れ、研究発表会で学校全体で共有できた。 ①-2 部門・学部でテーマを設定して研修会を実施し、職員の理解促進に努めた。 ②-1 各学部や情報管理チームで職員のニーズに合った研修会が実施され、授業改善につなげることができた。 ②-2 ICT 機器を使った授業参観を実施したり、通信や面談で取組の様子を伝えたりした。	①-1 2年計画で進めてきた校内研究の成果を次年度も継続・発展できるように検討し取り組んでいく。 ①-2 研修を通して得た知識をどのように授業に活かしていくかを検討していく。 ②-1 各学部・チームでそれぞれ研修を計画実施し、職員理解度を高めていく。 ②-2 ホームページでも取組の様子を発信していく。	<学校運営協議会> ミニ研修や外部講師の活用等良い取組をしている。隙間時間を使つての研修も大切である。 <保護者アンケート> ①「社会参加を見据え、発達段階に応じた教育を受けられてるか」に対し87%の評価を得た。 ②「ICT 機器の活用が進み、学習教材や授業が充実したか」に対し57%の評価。「わからない」が35%であった。	① 各学部で工夫し地域との連携を授業に組み入れて取り組むことができた。実践した地域と協働した授業づくりを継続・発展させていく。 ② 各学部や情報管理チームでそれぞれ研修会を実施し、授業改善につなげることができた。その反面、保護者等への情報発信の結果が思ったほど評価されなかった。	① 年間計画に組み込む等今年度の実績を次年度に活かせるよう各学部で継続・発展させていく。 ② 保護者への周知について、個別教育計画での位置付けや活用等について面談や授業参観で伝える等知る機会を意識して設定できるよう工夫していく。
2	児童・ 生徒指導・支援	障害や発達に関わる一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育支援を行う。	① 児童生徒が主体的に学ぶことができる学習環境を設定する。 ② 専門職等を活用した更なる支援体制の充実を図る。	① 子ども目線での教育環境整備の意識を定着させ、見やすさわかりやすさを一層推進する。 ② 複数のグループ(チーム)も連携した「チーム支援」を推進し、互いの専門性を生かした支援システムを構築する。また、専門職の紹介等具体的に発信していく。	① 児童生徒が主体的に学ぶ学習環境を設定することができたか。 ② 専門職支援体制の充実を図ることができたか。	① 各部門・学部のチェックシートを基に学習環境を整えることができた。 ② 専門職と連携し、装具や姿勢、摂食指導など、保護者のニーズを踏まえつつ、必要な支援や学習について検討することができた。また、専門職の情報を校内保護者向けの便りで発信した。	① 取組の共有やチェックシートを活用した教員の意識向上、学習環境の見直し(改善)を継続していく。 ② 専門性をより理解するための教員研修や連携内容の整理を充実させていく。また、お便りやホームページを利用し、今後も定期的に発信していく。	<学校運営協議会> 専門職の活用はとても良い。今後も積極的に取り組んでほしい。 <保護者アンケート> ①「お子さんが進んで学べる学習環境になっているか」に対し81%の評価を得た。 ②「担任以外(専門職・看護師等)のアドバイスを受け支援に取り組めたか」に対し44%の評価。「わからない」が34%であった。	① 各部門・学部のチェックシートを基に学習環境を整えることができた。主体的に学ぶための学習環境については今後も検討が必要である。 ② 各学部で専門職と連携し、必要な支援が学習について検討することができた。反面、保護者には専門職の活用について周知の工夫が必要である。	① 教育課程チームを中心に取組の共有やチェックシートを活用した教員の意識向上と主体的な学びに向けて継続的に改善を進めていく。 ② 専門職との連携を進めながら、支援体制の様子を面談で伝えたり、お便りやホームページで発信したりしていく。
3	進路指導・支援	児童生徒一人ひとりの生きる力を育むためのキャリア教育の充実を図る。	① 卒業後の社会生活を見据えた進路指導・支援について、職員研修を充実させる。 ② 各学部における卒業後の社会生活を見据えた系統性のある学習活動を進める。 ③ 保護者・地域等への進路指導情報発信の拡充を図る。	① 校内全体及び各部門・学部での内容を工夫し、職員研修を行う。 ② 「進路に向けての身につけたい力」「進路学習でのつけたい力」を活用するなど系統性のある学習活動を検証していく。 ③ 「進路だより」や保護者対象の進路説明会等を活用し、部門・学部ごとの情報発信を充実させる。	①③ 進路指導・支援について、研修や情報発信を進めることができたか。 ② 各学部で卒業後の社会生活を見据えた系統性のある学習活動を検証することができたか。	① 学部毎に外部講師を招いたり進路担当と連携したりして、職員研修を実施した。 ② 学部毎に「進路に向けて身につけたい力」を活用し、日々の活動や目標設定、学習内容の検討を行った。 ③ 学部毎に実施した保護者説明会やクラスルームを利用して、参加できなかった保護者にも情報を発信できるように工夫した。	① 教員が卒業後の生活について理解を深められるよう研修会を継続していく。 ② 各学部で学習に活かしていけるよう、随時内容の整理・見直しを検討していく。 ③ 高等部だけでなく小中学部の保護者にも説明会や見学会などの機会や情報の周知の仕方を検討していく。	<学校運営協議会> 進路指導の研修会、進路担当とも連携しながら授業に活かしてほしい。生徒が作る自分の取扱説明書はとても良い。企業まで引き継がれると良い。 <保護者アンケート> ①「各学部段階で児童生徒の生きる力を育む学習に取り組めたか」に対し81%の評価を得た。 ②「進路だよりや面談・進路説明会や進路先見学会等分かりやすかったか」に対し85%の評価を得た。	①③ 学部毎や全学部対象に、学部講師を招いたりして職員研修を実施した。今年度は知的障害教育部門の話が中心だったため、肢体不自由教育部門に向けた研修も充実させていく。 ② 学部毎に「進路に向けて身につけた力」について内容を確認し、活用することができた。	①③ 今年度の実績をもとに、各部門・学部での研修と内容を工夫し、職員研修を充実させていく。 ② 今後更に授業計画や個別教育計画の目標設定時に活用できるよう周知していく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価(3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域とともに、インクルーシブな社会の形成に向けたセンター的機能による発信と協働の充実を図る。	①職員一人ひとりがセンター的機能を担う意識の向上を図る。 ② 本校の特別支援教育のノウハウを発信する。	① 校内全体で地域の学校の課題やニーズ等を知る機会を設け、地域を支援するための知識を得る。 ② 教育活動や教材教具・支援の手立て等巡回相談時やホームページで情報を発信する。また地域の学校のニーズを踏まえた巡回相談や研修会を実施する。	① 職員の意識向上を図ることができたか。 ② ホームページ等での情報発信の充実やニーズを踏まえた巡回相談・研修会を実施することができたか。	① 児童生徒への考え方や授業の取組が、地域でのセンター的機能に結びつけることがミニ研修を通して確認できた。 ② 夏季休業中に教材教具展を開催した。また、巡回相談から必要な情報を検討しホームページで情報発信することができた。	① 職員一人ひとりが教材の提供等を通してセンター的機能に寄与しているが、実感がまだ持てていない。 ②より地域のニーズに応じた教材教具展を検討していく。また、ホームページを有効活用していく。	<学校運営協議会> 連携支援が活躍できているのはとても良い。センター的機能は日常的な支援として活用できると良い。 <保護者アンケート> 「支援だより等の発行や授業・交流学习・作品展等を通して地域との相互理解が深まる教育活動ができたか」に対し73%の評価を得た。	① 研修会で地域の学校の様子や事例について共有・検討した。ミニ研修は職員の意識向上の一助となった。 ② 教材教具展の開催やホームページで情報を発信することができた。	①②職員の意識向上に向け、地域の学校の様子を知る機会を設定したり、ミニ研修等を活用して、職員の日頃の取組がセンター的機能に結びついていることを周知させていく。
5	学校管理 学校運営	信頼される学校づくりの推進のため、安全で安心できる指導体制及び管理体制を構築する。	① 安全・安心な学校づくりのため、研修や訓練等計画・実施する。 ② 学校ホームページを活用し、校内体制と安全への取組を発信すると共に、地域と協働して安全安心な学校づくりに取り組む。 ③ 業務の整理や効率的な業務の遂行方法等を検討し、働き方改革を進める。	①-1 保護者や地域と協働の学校防災や避難訓練等何ができるか検討し、計画(周知)・実施・検証する。 ①-2 職員研修や訓練、マニュアルの見直し等安全な指導体制を構築する。 ② ホームページで日頃の学習活動や学校の取組を発信したり、地域からの情報を収集したりして、ホームページで紹介する等情報交換の場を設ける。 ③-1 各グループ・部門・学部で業務整理、効率化について継続して取り組む。 ③-2 新体制での分掌業務を行いながら、業務の効率化・平準化を引続き検証していく。	①-1 新たな学校防災や訓練のあり方等検討し、実施することができたか。 ①-2 研修や訓練等の計画・実施やマニュアルの見直し等行うことができたか。 ② ホームページを有効に活用し、情報発信することができたか。 ③-1 各グループ・部門・学部で考え、進めることができたか。 ③-2 新体制での分掌業務の効率・平準化について検証することができたか。	①-1 安全防災チームのみではなく、他のチームの協力を得ながら、研修・訓練に地域資源の方の参加の拡大ができた。また、外部の防災展にも参加し、地域と関わりを持つことができた。 ①-2 搜索区域に関しては再度検討が必要であるが、連絡方法に関してはマニュアルを修正することができた。 ②各学部で行事の様子や授業の様子など定期的に発信することができた。 ③-1 各グループ・部門・学部で検討し、業務の見直し・改善を進めた。 ③-2 総括連絡会等の場を活用したり、必要な時にグループリーダー間で検討したりした。	①-1 地域と協働した研修・訓練に参加してもらったための発信方法、防災食や物品を管理・保管する場所の検討が必要である。 ①-2 今年度実施して課題となった個所を検討し改善を行ったが、今後も引き続き訓練を行い、見直しを重ねていく必要がある。 ② 引き続きホームページを活用して学習活動の取組を発信していく。 ③-1 引き続き部門・学部での業務改善案を共有し、積極的に進めていく。 ③-2 次年度も総括連絡会等を活用して各グループの活動を振り返り検証を行っていく。	<学校運営協議会> 地域の放水訓練にも生徒が参加しているのは大きなことである。 働き方改革について、会議の数、資料の数、数値化して比較できると良い。業務アシスタントの活用も素晴らしい。 <保護者アンケート> ①「安全で安心できる学校づくりのため保護者や地域と協働して学校防災や避難訓練を実施しているか」に対し76%の評価を得た。 ②「学習活動や学校の取組等の情報が、お便りやホームページ等で迅速に分かりやすく提供されているか」に対し86%の評価を得た。	① 複数のチームと連携・協力して、研修や訓練に地域の方も参加して実施することができた。 ② ホームページで日頃の学習活動の様子や学校の取組を発信することができた。学校全体として、地域・保護者への発信はもちろん、職員に対しても更に周知し、他学部の情報等学校全体を知る一つとして活用してもらいたい。 ③ 各グループ・部門・学部での業務整理、効率化への取組について、教員の64%が評価している。しかし、分掌業務の効率化・平準化は49%の評価で「そう思わない/わからない」が51%と上回っている。	① スクールバス運行時の発災や防災訓練等について、職員が発災時をイメージして行動できる内容を検討していく。 ② 更なるホームページの有効活用に向け、職員での協力依頼や積極的な活用を進めていく。また、本校のホームページについて、年度始めだけでなく機会がある毎に意識して周知していく。 ③ 多様な働き方がある中で各グループ内での業務の見直しに引き続き取り組む。また総括教諭を中心に情報を共有し、業務の効率化・平準化を進めていく。